

森づくりの最前線

吾妻森林管理署 上沢渡森林事務所 森林官 杉山 浩史



群馬100名山「有笠山」

私が勤務している上沢渡森林事務所は、群馬県の北西部の中之条町に位置し、約4,800㍍の国有林を管理しています。

管内には群馬100名山に選ばれている有笠山（標高888㍍）があります。有笠山は流紋岩の鋭い岩肌がむきだしになった個性的な姿をしている美しい山です。登山口は西口・東口の2箇所あり、登山道は比較的整備されているため、一般の人でも安全に歩けるコースになっていますが、頂上へのアプローチには鎖やはしごを用いるので注意が必要です。頂上には沼があり、白い大蛇が住んでいたという神秘的な伝説も秘められた山です。また、この山の中腹で弥生時代中期のものと思われる住居状遺構や小洞窟遺跡が発見されており、コース途中には有笠石門（西門・東門）や、先住民族の遺跡といわれる洞窟などを見ることができます。この有笠山周辺は風景林とし管理し、優れた景観を維持しています。



有笠石門(西石門)

また、中之条町と旧六合村（現中之条町）との境には暮坂峠（標高1,086㍍）という峠があります。この暮坂峠は四季折々の景色が楽しめ、特に紅葉の時期は見事な景観を誇っています。この峠は、古くからは草津温泉と沢渡温泉とを結ぶ交通の重要な役割を果たし、頻りに人々の往来が行われていました。また、詩人若山牧水がこの暮坂峠を歩いた際に素晴らしい景観に感動し『枯野の旅』を残したことで知られ、峠には牧水詩碑が建てられています。この暮坂峠周辺は風致探勝林として管理し、枝打ちや間伐を行い林内を明るく見せるなど美しい風景を維持するために森林整備を行っています。



牧水誌碑

当事務所の約75%がスギ・ヒノキ・カラマツの人工林で占められ、管内の隅々までびっしりと植林されています。車も重機もない時代に山の奥地まで植林されたスギやヒノキの人工林を見ると先人の凄さに感心させられます。一方で近年においては、二ホンジカやクマなどによる食害・皮剥ぎ（角砥）被害なども増えてきているように感じます。幼令木の食害を防止する獣害への対策を取りつつ森林整備を行い、良質な木材生産や森林の多面的機能を十分に発揮されるような森林づくりを行っていきたいと思います。

森林官になって2年目を迎えています。経験不足な部分は多々ありますが、少しでも経験不足を補えるよう、たくさん山を歩いて山から多くのことを学んでいきたいと思っています。

そして、地域との繋がりを大事にし、開かれた国有林を目指して頑張っていきたいと思っています。



ヒノキの人工林